

公明党議員団 加藤代史子 研修に参加して

平成 29 年 9 月 12 日（火）東京霞が関ナレッジスクエアスタジオにて行われた「ギャンブル依存症対策フォーラム～ギャンブル等依存症者や家族に必要な支援 アウトリーチから継続ケアまで～」に参加しました。

30 年を超える臨床経験を持つアメリカの専門家ロリーン・ルーグル博士による「ギャンブル等依存症者や家族に必要な支援とは」の講演がありました。

ロリーン・ルーグル博士

メリーランド大学医学部問題ギャンブルセンタープログラム・ディレクター

国際問題ギャンブルカウンセラー認定委員会（IGCCB）代表

まずローリン博士による講演が、同時通訳でありました。博士は入院病棟・入所施設・外来診療等の場で問題ギャンブルの治療と予防にかかわってきた先生で、現場の話は大変わかりやすかったです。お題は「ギャンブル障害の理解と治療」。

人はなぜギャンブルをするのか。

- ・興奮
- ・経済活動（お金儲け）
- ・エンターテイメント
- ・逃避（自分の問題をしばしの間忘れ、困難な感情に対処するため）
- ・エゴ（その人のプライドや評判がギリギリのところに来ていたり、恥をすすぐため）

私自身はギャンブルをしないのでなぜギャンブルにのめり込むのかわかりにくいところがありましたが、理由があることには驚きました。しかし日本のパチンコ産業は 19 兆円、これは自動車産業の 2 倍。日本には 279 万台のパチンコがあり、アメリカではスロットマシンが 100 万台だそうでこれも驚きました。

そしてカジノが建てられたときにギャンブルが問題化するのではなく、ギャンブルの問題は既に存在しており、カジノの導入は、問題ギャンブルに対する取り組みを行う公衆衛生的アプローチに資金を投入するための機会を提供してくれるとあり、本当にそうであると思いました。身近に問題ギャンブルの経験がなかったので本当によくわからなかったのが現状です。しかし先生から問題ギャンブルは脳の病であると明言され驚きました。

ギャンブル依存症にはギャンブル施行団体からの支援体制が重要で、規制当局、治療専門職、回復支援施設が必要です。

今回の講演の主催者は「ワンネスグループ」で、共催は日本ギャンブル依存症ソーシャルワーカー協会です。

ワンネスグループの紹介もありました。世界基準の依存症専門プログラムで確実に依存症からの回復のため、薬物・アルコール依存症回復支援施設を運営しているところで名古屋にもその施設があるそうで驚きました。運営している方々はほとんど依存症経験者で、

経験者として回復の手伝いをしており、当事者の気持ちがわかる、寄り添える、役に立ちたい気持ちで運営をされているそうです。依存症が原因となって触法行為を繰り返す方を適切な治療へと導くことを目的にダイバージョ（転換）センターを新設されています。

ギャンブル依存症は本人だけでなくその家族も巻き込みます。しかし回復に向けての相談体制、回復施設があるということを知ることができました。

今本市では県の国際展示場スタートに向け、しっかりとした経済効果が常滑にも波及するように考えなくてはならない時期となりました。「IR」が本当に常滑に必要であり、デメリットとなる「依存症」の問題に真正面から向き合う調査研究を、議会としてもする必要性を強く感じました。